

いいまち 議会だより



第79号 平成29年10月15日

発行：長野県飯島町議会

P3

あれどうなった
福祉医療費の窓口無料化を
ひとこと広場
議会のハテナ？
付帯決議とは？

P4～5

9月定例会 決算審議
長年の夢叶う



P6～7

本会議
職員不足が課題に
臨時会
観光拠点施設を付帯決議と合わせ可決
決算・予算特別委員会を設置



P8～9

総務産業委員会 決算審査
実態に即した評価を



P10～11

社会文教委員会 決算審査
事務量に見合った
職員体制を



P12

住民と懇談会



P24

町民の声を議会へ
奥原選手に続け!!



町政を問う

ここが聞きたい

11 議員が質問

久保島 巖

公共施設縮減

縮減率目標5.5%とは … P13



竹沢 秀幸

七久保診療所

医師確保を …………… P14



滝本登喜子

祭りイベント

行燈市はなくなるのか … P15



坂本 紀子

特命チーム営業部

法人化をするのか …………… P16



橋場 みどり

「支え合いマップ」

作成の主体はどこ …………… P17



好村 拓洋

職員体制

適正化を …………… P18



折 山 誠

町社会福祉協議会

連携強化を …………… P19



本 多 昇

平成28年度決算

収支状況は …………… P20



三浦寿美子

就学援助

入学前支給を …………… P21



浜 田 稔

儲かる飯島町

町の経済をどう変える …… P22



中村 明美

中学校西側道路

拡幅計画を …………… P23



「一般質問」とは
行財政にわたる議員主導による政策の議論です。(通告順)

表紙の写真／「空にむかって」千人塚にて

追跡

あれ どうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情
その後のゆくえ

福祉医療費の窓口無料化を (平成26年3月定例会)

窓口負担は若者・定住・子育て支援の障害と
なっている。

その後

平成29年9月

福祉医療費給付金
給付
平成30年8月1日
から適用

児 福祉医療費受給者証	
市町村番号	0 4 8 事業番号
受給者番号	
居住地	長野県上伊那郡飯島町
氏名	
生年月日	年 月 日
有効期間	年 月 日から 年 月 日まで
種 別	
交付年月日	年 月 日
発行機関名	長野県上伊那郡 飯島町長 印
及 び 印	

ひとこと広場

向かう方向は同じなのに、各々バラ
バラで自己満足に終わっている。
ひとつにまとまる努力をみんなで
するように議員さんにはって下さい。

障がいのある人も家族も
地域の人も安心に暮らす
ことが出来る環境づくり
を進めていただきたい。

議会のハテナ？



付帯決議とは？



決議の種類の1つ。可決された案件に対し、事業を執行するうえでの要望や
留意事項を述べるために提出されるもの。

9月定例会 平成28年度決算審議

「飯島中央クリニック」・「いっ子センター」実現

長年の夢叶う

実質単年度収支* 1279万円の赤字
単年度収支 6598万円の赤字

9月定例会は、8日から20日までの13日間開催されました。

防災・暴力団排除・福祉医療費にかかわる条例改正と平成29年度補正予算などが提案されました。

平成28年度一般会計・各特別会計・水道事業会計の決算は決算特別委員会を設置し、補正予算は予算特別委員会を設置し、それぞれ付託し審査しました。

また、条例及び陳情案件は常任委員会に付託しそれぞれ審査しました。

本会議最終日に全案件を認定・可決しました。

一般質問は11人が立ち、町政をたしました。

* 実質単年度収支とは
その年度中に発生した赤字か黒字か(単年度収支)に貯蓄や借金の増減などを加味したもの。
単年度収支が赤字でも、借金の前倒し返済や貯金した額を考慮すると実質黒字と判断できる場合がある。また、黒字に見えていても貯金を取り崩して運営していた場合などには、実質赤字の場合もある。

一般会計

歳入減、歳出増

歳入

53億9106万円

前年度対比 4423万円(0.8%) 減

町税が前年比2.2%と4年連続増の一方、地方交付税は1.5%減少しました。

また国支出金は前年度「道の駅 田切の里」の完成で23.3%減、県支出金も農地集積の減速で20.7%減となりました。

歳出

51億681万円

前年度対比 4643万円(0.9%) 増

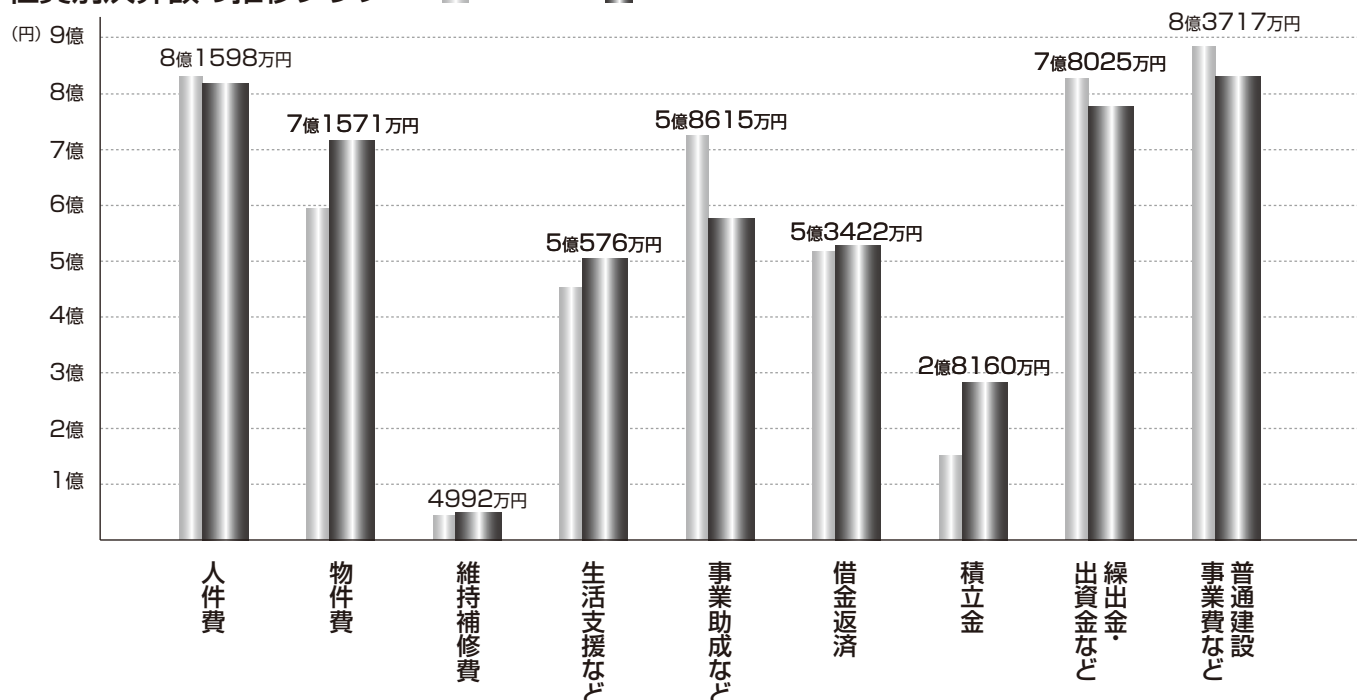
普通建設事業は「キッズ防災拠点施設」建設や診療所開設に伴う石楠花苑の改築などにより増えましたが、前年度の「道の駅 田切の里」竣工による事業終了と相殺し、6049万円の減となりました。

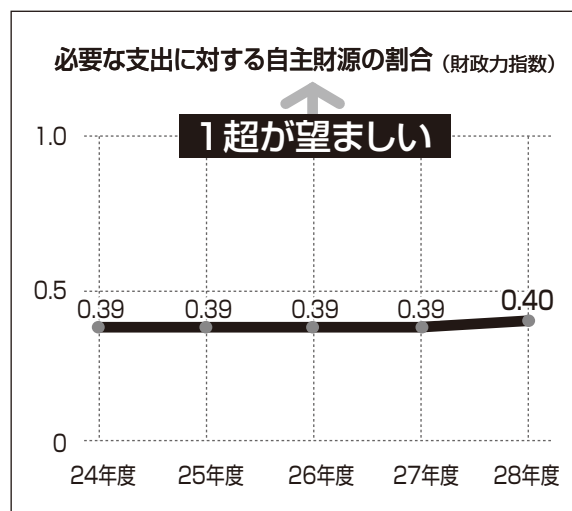
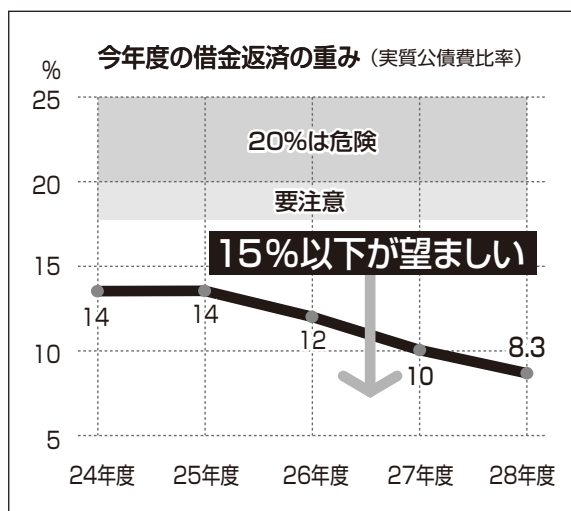
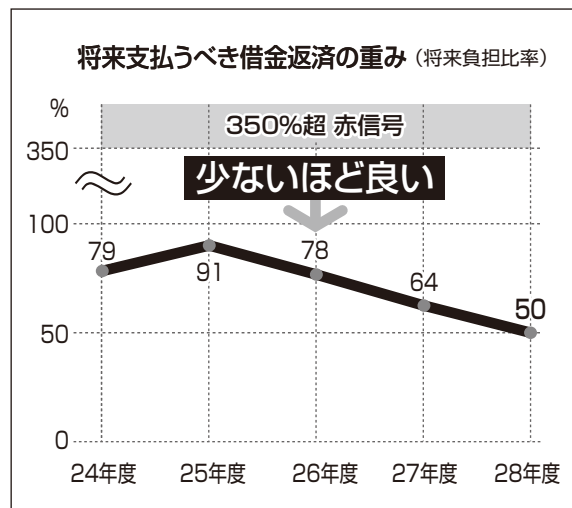
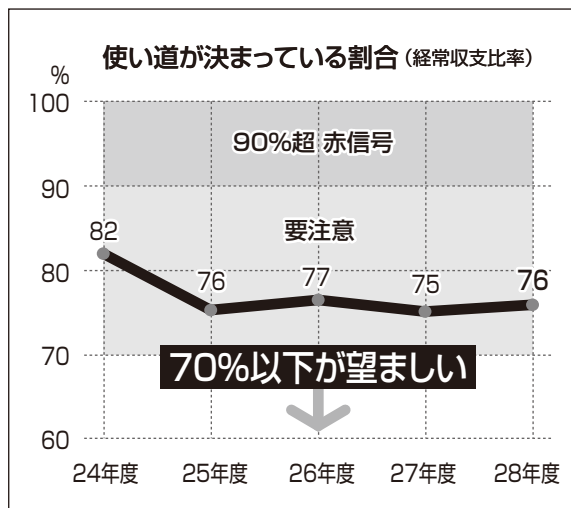
積立金は1億2063万円(175%)の大幅増となりました。

借金返済(公債費)は2億926万円(4.1%)増、人件費は1751万円(2.1%)の減でした。

性質別決算額の推移グラフ

■ …27年度 ■ …28年度





- ・ 経常収支比率は、地方交付税や臨時財政対策債が減額される一方、物件費・維持補修費などに充当した一般財源の増加などでやや悪化した。
- ・ 実質公債費比率と将来負担比率は、下水道および一般会計の借金繰り上げ返済により改善した。
- ・ 財政力指数はやや上向いた。地方交付税が減少し、町税が増えたことによる。
- ・ 「いいっ子センター」など大型事業を実施した。

今後の新規事業は、今まで以上に計画性をもって慎重に行い、健全な財政運営を継続することが求められる。

平成28年度 会計別決算

会計区分		歳入	歳出	差引額	貯金(基金)	借金(公債費)
一般会計		53億9106万円	51億 681万円	2億8424万円	20億7598万円	49億8313万円
特別会計	国民健康保険	11億4705万円	10億7905万円	6800万円	1億9858万円	—
	後期高齢者医療	1億2356万円	1億2081万円	275万円	—	—
	介護保険	10億6190万円	10億4261万円	1928万円	4122万円	—
	公共下水道事業	3億8256万円	3億6602万円	1653万円	—	38億5141万円
	農業集落排水事業	2億8153万円	2億6347万円	1805万円	—	19億4029万円
水道事業		2億7545万円	3億6076万円	2777万円	1億 150万円	15億7546万円
合計		86億6312万円	83億3957万円	3億2355万円	24億1728万円	123億5029万円

(万円未満は切り捨て)

社会保障制度改正や地方創生などにかかる事務量の増加で 職員不足が課題に

平成28年度決算審議 全7会計を全員一致で認定

決算特別委員会の審議報告

- ・「地域おこし協力隊」増などに伴い、物件費に含まれる人件費を常に明示すること。
- ・財調以外の基金積立額目標を明らかにすべき。



更新の必要な高度情報設備 ハブボックス

- ・不用額と流用の理由
流用による事後的調整が避けられない予算があることは理解した。一方、不用額を改善できた事例も認められた。
- ・職員不足
ライフライン保全・住民福祉など、先送りにできない毎日の業務がある上に、企業会計導入・セキュリティ対応・調査事務などの負担増が認められた。
- ・収納対策
悪質な事例を除き、滞納者への地道な対応で改善が認められた。

平成29年度補正予算 全7会計を全員一致で認定

予算特別委員会の審議報告

- ・不動産鑑定士費用は、紅葉園の販売公募価格の妥当性を検証するために必要なもの。
- ・高度情報化基金の目標額は、ネットワーク機器の更新を見据えた積み立てであり妥当。
- ・土地開発公社補助金は、実施計画では2000万円だったが、決算状況を見て3000万円としたことを認めた。
- ・保育園の給食材料費補正は、野菜・魚の価格高騰のための財源確保であった。

条例の審議結果

内 容	付託	結 果
防災会議条例の改正	総務	採択 賛成 7 - 反対 4
暴力団排除条例の改正	総務	採択 賛成 11 - 反対 0
福祉医療費給付条例の一部改正	社文	採択 賛成 11 - 反対 0

陳情の審議結果

内 容	提出者	付託	結 果
田切地区の東西幹線道路整備を	4区連絡協議会	総務	採択 賛成 11 - 反対 0
太陽光発電の条例改正で規制強化を	4区連絡協議会	社文	採択 賛成 11 - 反対 0

意見書の審議結果

内 容	提出者	結 果
道路整備予算の補助率継続を	滝本登喜子議員	採択 賛成 11 - 反対 0
廃棄物最終処分場建設に住民同意を	三浦寿美子議員	採択 賛成 11 - 反対 0

決算・予算特別委員会を設置

今議会から、予算・決算は特別委員会を設置して審査を付託することにしました。

従来は議案を2つの常任委員会に分割付託して審査してきました。丁寧な審査を可能にするためです。

一方、委員会間の審査状況が見えにくく、また1本の議案を分割するのは審議ルールにも抵触しかねません。

そこで、特別委員会を設置し議案を分割せずに審査付託することとしました。従来同様、2つの分科会を設けますが、財務と審査まとめは委員全員で行い、分割による情報交換不足を補います。

千人塚の観光拠点施設を付帯決議とあわせ可決

平成29年第4回臨時会が開催されました。6月定例会で削除した千人塚の観光拠点施設予算を、目的が修正されたことを受け全員一致で可決しました。

臨時会
8/10

補正財源

国庫補助金	4450万円
町債	3980万円

使い道

観光拠点施設	9085万円
(予備費 655万円も充当)	

可決に至る経過

- ・6月議会で千人塚に観光拠点施設建設を含む補正予算案が上程された。
- ・一泊4万円超の豪華キャンプ場事業を前提としたもの。
- ・唐突な提案で、観光計画での位置づけも不明確。
- ・議会は予算総額から当該施設分を全員一致で減額。

- ・町は目的を「町民が集い、憩いの場となるよう観光の基本的施設を整備する」と改め、臨時会に補正予算を再上程。
- ・議会は全員一致で可決。
- ・議会は「将来にわたり住民負担にならぬこと」「住民や議会への事業説明を尽くし、事業費も精査すること」などを町に求める付帯決議も可決。

中部伊那議員研修

飯島町から2題を提言

8/24

中部伊那4町村（大鹿・中川・松川・飯島）の議会議員研修が、理事者同席の中、中川村文化センターで開催されました。10の政策課題が採択され、正副議長が県へ要望活動を行います。

研究討議

当町からは下記の提言を発表し、それぞれ採択されました。

◇中央アルプスの国定公園化と県道千人塚公園線の改良促進を求める
滝本登喜子議員

◇自治体がかかわる移動販売車事業に県の支援金制度を
折山誠議員

講演

中川村出身 女子美術大学教授 原^{きよし}聖氏の「アートフェスティバルと地域振興」と題した講演を聞きました。

原氏は『経済効果だけで芸術祭の評価は難しい。これを求めるのであれば、地域内投資力のある事業を地域で開拓すべきだ』とのお話しでした。

いくつか事例を聞きましたが、アート（芸術）で地域おこしをするのは課題が多いと感じました。



提案する滝本議員

評価書 98%がA評価 実態に即した評価を

平成28年度各会計決算の分科会付託分を審査しました。

主 な 質 疑

総務課

問 不用額と流用が目立つが。

答 予定した事業は実施した。流用は当初との見込み違いがあり、事業コード内で行った。

問 循環バスの評価はA改善だが、S評価でも良いのでは。

答 エリアデマンドの認知度は上がったが、利用者数は減る傾向だ。利用者拡大のためFAXや1か月予約も検討したい。

問 防災対策支援業務のボランティア団体に30万円支払いの内容は。

答 自治会主催で、経験の多い災害ボランティアを講師として実践に基づいた講習などが開催された費用。意識改革などが起きている。

企画政策課

問 ふるさと納税の純利益はどのくらいあるのか。

答 返礼品や送料・人件費などを差し引くと、純利益は3割くらいだ。

問 決算書の不用額の補正作業は事務量増になるので、翌年財源として残せばよい。

答 その考えはあるが、今は不用額を出さないようにしている。

特命チーム営業部

問 営業部の各部会の中でも認識の違いがある。

行政内や議会にも、今後の方向性など報告されるべきだが。

答 大きな課題だ。期待感をもって入ったが出来高になっていないこととか、フィットしている部とそうでない部があり、今年はとにかくやってみて判断して一歩踏み出す時期だ。

産業振興課

問 伊南バイパスが田切まで開通した。街なか商業の状況の変化と全面開通時の影響をどう考えるか。

答 調査が必要と考えており、商店・商工会と協力・連携してデータを取りたい。

問 農家に対する様々な支援・補助金があるが、知らない人が多くいると感じている。PRや告知をしているか。また、経営転換補助金を貰えない人がいると聞くが。

答 PR不足はあると思うので改善する。補助金は漏れがあったと認識しているので支給されるよう県と協議中。

問 森林税利用の状況は。

答 町は県下でも利用している方だ。森林組合などで計画し優良な地域はかなり進んできた。

会計課

問 封筒などに民間企業から広告を出してもらってはどうか。

答 町からの通知を企業のDMと間違えられ、捨てることを心配し慎重に検討する。

議会事務局

問 仕事量と人員体制に無理はないか。

答 統計業務が10月と2月にあり、定例会と重なりハードとなる。本来は町長部局の仕事だ。

建設水道課

問 道路維持整備の評価がB改善と謙虚である。実施率の向上とあるが、何%になるのか。

答 29%である。

問 グリーンリーフとグリーンハートでの修理費は何か。

答 リーフは、10年経過し排水のつまり。ハートは機密性が高いのでカビが発生し修理した。

公共下水道

問 経営戦略は効果的だったか。

答 国の交付金を得るために今後10年間の経営計画を、償還・起債・経費・処理区統合などを数字で表す必要があった。

農業集落排水事業

問 滞納者の状況は。

答 上水道2年・下水道5年の時効の違いにより、滞納額が多い人ほど貯まりやすい。

水道会計

問 監査委員より、外部の税理士を導入してはと指摘があったが、課長の考えは。

答 職員は複式簿記にはすぐ対応ができないので、外部委託すると楽になる。しかし、現状のマンパワーは必要だ。

補正予算審査

平成29年度一般会計補正予算(第4号)分割付託分と3特別会計など補正予算を審査しました。

主な質疑

問 紅葉園査定の不動産鑑定費用が計上されたが、購入額と差がついたのはなぜか。

答 購入額は固定資産税の評価台帳を基にし、売却公募額は不動産業者の現物調査の上で決めた。

条例審査

飯島町防災会議条例の一部改正

質疑

問 防災会議に自衛官を加える必要性は。

答 災害経験豊富な自衛官に加わってもらい、防災計画の精度を高めるため。

討論

反対

◇防災会議で議決権があるのは問題だ。アドバイザーでよい。

賛成

◇災害時の状況など、経験を町民に伝えることができ参考となる。

賛成3 反対2

飯島町暴力団排除条例の一部改正

賛成

◇個人情報の対応をしっかりと決めることとし賛成。

賛成5 反対0

陳情審査

◇田切地区の東西を結ぶ幹線道路の整備を

提出者：飯島4区会長 伊藤賢氏

◆内容 田切地区における道路の整備を。

意見

賛成

前回の提案よりも実現性の高いルートだ。東西の幹線道路は必要である。

商工会役員・工業部会との懇談会

「働き方改革」についての意見

8/30

時間外勤務の縮減・賃金格差の是正などの概要説明を受け、意見を聞きました。

- ・一企業の努力だけでは限りがある。同じレベルで一斉に実施をしないと、体力のある所だけが生き残る。
- ・現場を知らない制度改革に迷惑している。
- ・下請け業者は大手の状況により変わる。大手が残業を絞れば下請けは残業が増えるという事情を理解していない。
- ・残業が増えることは悪いことではない。残業対策や給与賃金は各企業の努力だ。議会や行政が関与することではない。
- ・人材育成やスキルアップの助成とか就職の斡旋などをして欲しい。
- ・公共事業の入札制度の見直しを要望。町外自治体に参加できないので、町も町外業者は指名しないよう願う。落札額だけを要件にすると町の事業者は存続できない。
- ・行政も「働き方改革」を出来ないのではないかな。

現場視察

原井1号トンネル工事

9/15



本郷地区に豊かな水を

事務量に見合った職員体制を

平成28年度各会計決算の分科会付託分を審査しました。

主 な 質 疑

一般会計

問 生活環境係は、空き家対策や太陽光発電環境対策など業務量が増大している。今の職員体制で処理できるか。

答 現場調査が多く大変である。

問 分譲墓地の返還希望と対応は。移住者用パンフレットに情報掲示を。

答 4件あった。町への無償寄付は断っている。パンフレット掲載は検討。

問 全国で所有者不明の土地が行政運営上の支障となっている。町に事例はあったか。

答 今のところない。死亡時に相続手続きの一覧表を渡すなど、発生の予防に努めている。

問 高齢者拠点施設整備が完了した。カギをかけない寄り合い所にするように住民要望が多い。

日を限定して開所するなど自治会の協力を求めては。

答 提案してみる。

問 障がい者のグループホームの需要が、保護者の高齢化で高まっている。設置の検討はしたか。

答 必要と考え、内部で検討しているが、事業者の人材不足が障害となっている。32年度までに1施設は設けたい。

問 買い物支援に、有償ボランティア立ち上げの希望が地域にある。許可やリスク回避など、行政として支援は可能か。

答 運輸業界と調整などの課題があり、可能性を検討する。

問 未熟児養育医療費が増加している。現状と対策は。

答 重症者がいる。予防対応はできていない。

問 福祉医療費が高校生まで無料化したが、対応はどうか。

答 充実したが、事務量増加で職員は大変だ。

問 不登校の現状は。

答 30日以上が19人。

問 いじめの実態は。

答 内容・程度にかかわらず報告のあった件数は66件。

問 学校開放やコミュニティスクールなどは大変良い。しかし教職員の負担が増さないように留意工夫すべきでは。

答 そう考える。

問 学校給食ではスプーン洗淨機の問題で、カレーを箸で食べているが。

答 給食センター改善の計画があり、3年を目途に対応する方針。

問 生涯学習分野は、幅広く事業が行われているが、他市町村と比べてどうか。

答 スポーツ振興で、総合型クラブの運営面では種目が少なく、充実が必要。

一方「文化サロン」は、他に例のない住民主導の取り組みと思う。



未使用墓地 返還希望の区画も

問 町は滞在型観光を目指している。公民館の各種講座で、体験や観光をサポートできる人材を養成しては。

答 検討する。

問 太陽光発電は、設置推進と環境対策が町民注目の課題。行政評価書に項目として掲げるべきでは。

答 評価書全体の課題であり検討する。

国民健康保険特別会計

問 現状と課題は。

答 平成30年度から運営が県に一本化される。しかし、従来事務の多くを町で行うこととなり、負担軽減につながらないことが明らかになった。

介護保険特別会計

問 介護度が重くなり居宅サービスが増えている。重くならない対策は。

答 宅配健康教室などにより重症化を予防している。

補正予算審査

平成29年度各会計補正予算の分科会付託分を審査しました。

主 な 質 疑

一般会計

問 建設したばかりの子育て支援センターの修繕内容は。

答 照明器具スイッチを災害時の利便性を考えて改善する。

問 保育園の給食材料費増額の理由は。

答 園児の増加と野菜や魚が高騰しているため。

問 飯小のジャングルジム撤去の理由は。

答 遊具安全基準の改正により、使用不可となった。更新は考えていない。

問 海洋センター「海を守る植樹教育事業」の内容は。

答 豊かな海を育てるための教育の一環として、与田切川右岸にどんぐりなどを植樹。

条例審査

町福祉医療費給付金
給付条例の一部改正

◆**内容** 医療費の窓口無料化と受給者負担軽減

質 疑

問 改正で町の負担増は。

答 600万円を見込む。

問 改正の住民周知は。

答 受給者証更新時と予算広報時に行う。

討 論

賛成 子育て支援の充実を評価。

賛成 県制度を超えた手厚さを評価。

陳情審査

◇太陽光発電設置に関する条例改正を

提出者：町四区連絡協議会

会長 伊藤 賢^{まさる} 氏

採択 賛成5 反対0

◆**内容** 条例改正で、景観を含め生活環境に配慮した規制強化を。

質 疑

問 設置後事業者が変わり、管理不履行などの事例はあったか。

答 地主と事業者が異なり、当惑したことはあった。

討 論

賛成 環境悪化に対する住民不安は解消すべき。



太陽光 あちこちにこんな風景が…

住民と懇談会

山久自治会で井戸端会議 8/8

議会運営委員会主催の住民懇談会を開催し、多くの住民と活発な意見交換ができました。

主な意見

- ・町内を周遊する観光計画が必要だ。
- ・水道・下水道に先行投資をしては。
- ・学童保育は飯島町と駒ヶ根市との差がある。
- ・若者定住者の生活拠点となる住宅の確保が必要では。
- ・若者の働く場の確保が必要。
- ・区の負担が大きく、町で行うことは町でやってほしい。



活発な意見交換 ワークショップ

- ・自治会・区の位置づけは、二重構造ではないのか。
- ・議員は全体を見て意見を言ってほしい。

いいちゃん井戸端会議 9/5

いいちゃんまちづくり連絡協議会と開催しました。

日頃感じていること、今後の米俵マラソンの意見交換を行いました。

主な意見

- ・良い町をつくりたい気持ちはみな同じ。でもどうしたらよいかわからない。
- ・住むのは静かな飯島で、勤めは近隣という方向で良い。
- ・4つの区がひとつにまとめることが必要。
- ・シオジ平自然園の活用を。
- ・「いいねいいじま」踊りの普及を。

- ・七久保診療所が無くなると困る。
- ・今年の花市は早く売り切れた。改善を。
- ・「儲かる飯島町」成果と方向性が見えず不安。
- ・営業部とはなにか。町民にアピールが少ない。
- 米俵マラソン
- ・食材や調理道具集めに役員は大変。
- ・ボランティアが減っており、ランナーは2000人が限度。
- ・勤めている人が少しでもボランティア参加できる工夫を。
- ・ランナーの「おもてなし」評価は非常に高い。
- ・皆が楽しめるイベントに。



熱く語りあった分科会

議員視察研修

◆議会改革シンポジウム 7/7

松本波田文化センター

議員のなり手不足・政策提言のあり方を学びました。

◆町村議会議員研修 7/19

松本キッセイ文化ホール

「議員のなり手不足について」講演を聞きました。

◆議会のあり方研修 7/26

町役場

みやざき やすし
県町村議長会宮寄康史氏を講師に招き、町議会運営の課題を提起し、考え方を学びました。

◆町内企業視察 7/26

三甲(株)長野工場

昨年竣工した工場を視察しました。拡張も計画しており、地域雇用場として期待されます。

特別養護老人ホーム越百園

上伊那福祉協会が運営し、経営・人材確保に苦勞している現状を聞きました。

◆伊南バイパス4号橋視察 9/20

来年度開通予定の伊南バイパス4号橋の工事現場を視察しました。

公共施設 縮減

縮減率目標5.5%とは

人口減の半分とした 町長



久保島 巖

問 本年3月策定した「公共施設等総合管理計画」によれば、2030年までに5.5%縮減と明記された。その算出根拠は。

町長 現在住民1人当たりの公共施設は8㎡で、人口減少の進む2030年には1人当たり9㎡となる。同レベルにするには11%の縮減が必要だが、利便性などを考え5.5%、4200㎡削減を目標値にした。

問 具体的にはどの施設が縮減されるのか。

企画政策課長 施設全体のあり方を検討していく。

問 学校はどうなるか。

教育長 文科省は複式学級になるようだと再編統合の指針を出している。町は今すぐ何かを検討する考えはない。

問 計画では、町民・有識者・議会などと情報を共有し、意見の反映を図るとなっている。中学生も入れるべきと思うが。

企画政策課長 住民代表や議会への参画は、個別の計画や事案において機会を設けたい。子どもたちの意見を聞くことも必要なら行う。

それぞれ施設のあり方は、役場内で横断共有し、個別計画は策定目標の平成32年度に向け体制構築する。

子どもたちに ふるさと愛を

問 ふるさと愛を醸成する「飯島PR隊」の活動を大変評価する。活動に十分な費用が充てられているか。

町長 子供たちの気持ちを大切にし、継続した活動ができるよう支援していきたい。

問 子どもたちに行政や議会を知ってもらうため、年間を通した「子ども議員」を提案するが。

町長 これまでの「子ども議会」は、とてもよかったという感想の一方で、学校の負担になっている実情もある。

子どもたちと話ができる機会が必要だ。

問 「ふるさと飯島」の郷土愛を育むため、資料館や博物館は必要だ。老朽化した施設の今後を考えるべきでは。

教育長 陣嶺館は昭和49年開館の古い施設で、収蔵場所がないことなどから後継施設が検討課題だ。社会科資料室という位置づけで、学校の空き教室利用も含め検討を始めた。

問 地域おこし協力隊卒業生の定住

は大きなPR効果がある。適正かつ有効な採用をしないと逆効果になるが。

副町長 一期生には非常に感謝している。町は協力隊員の起業支援補助金を創設し、町への定住を後押ししていく。隊員は私たちが気づかない地域の魅力に敏感であり、郷土愛を育み深める事にも期待する。

問 子どもたちの自慢になるような施設として、柏木グラウンドを400mトラックの陸上競技場にし、フィールドを芝生のサッカー場にしたらどうか。売木村では地方創生加速化交付金で取組んでいる。

教育長 大変魅力的な提案だが、課題がある。整備に有利な財源があっても、ランニングコストは必要だ。町全体の計画の中で検討すべきである。

〔以上2件質問〕



飯島PR隊の歓迎横断幕



竹沢 秀幸

七久保診療所

医師確保を

引き続き努力
町長

問 閉院される。これまでの医師の努力をどう評価するのか。

町長 廣瀬医師は、平成7年7月3日から七久保診療所3代目所長として就任した。この22年間第1次医療の担い手として、地域に根差した診療に尽力された。

また、学校医・保育園医・予防接種・介護保険意見書・各種役員など、町の事業に多大な貢献があり、その功績に大変感謝している。

問 七久保診療所の今後は。

町長 高齢による不安を理由に、11月30日をもって診療を終了

したい旨が伝えられた。その場には弁護士が同席しており、医師の非常に重要な決意であると受け止めた。

今後の七久保診療所は、医師が不在のため一旦閉院する。土地・建物は現状維持する。

問 医師確保の努力を。

町長 七久保住民の熱い思いに応えるため、ここで諦めるわけにはいかない。可能性が全くない状況ではないので、今後も引き続き努力していきたい。

運転免許証
自主返納者に助成を

問 高齢者運転免許証の自主返納者への助成や、支援制度の創設を求めるが。

町長 本年度福祉タクシー券の交付対象者の拡大を行った。

家族が仕事で留守になり、運転免許証を持たないで、日中に高齢者のみになる人へ交付している。

安全・快適に暮らすための交通手段の確保は、高齢化社会の課題なので、今後も財政面を含め検討したい。



七久保診療所

「いいちゃんバス」無料化を

問 町民のための政策である公共交通の利用率向上・定住促進など多面的効果を求め、循環バス無料化を求める。

町長 地域循環バスを含め公共交通の充実を図ることは、住民の利便性を高めるために重要なこと。

町内エリアデマンド運行では、タクシー事業と循環バス事業の営業区域が重なっており、利用者が同じでタクシー業との共生が必要。

無料化はできないが、引き続き今後も使いやすい循環バスとなるように検討する。

蜂ハンターに支援を

問 公共施設などの赤バチ駆除に活躍する蜂ハンターに支援すべきでは。

副町長 保険加入を検討する。

〔以上4件質問〕

七久保診療所閉院のお知らせ

当診療所は、本年11月30日をもって閉院することになりました。当診療所の患者の皆様、また、七久保地区の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

飯島町といたしましても当診療所の廣瀬先生の後任を探してまいりましたが、今までのところ見通しがたっておりやむなく閉院の措置をとらざるを得なくなりました。大変長い間町民の皆様方にお世話になったことに感謝申し上げます。ここにお知らせいたします。

なお、診療に関わりますお問合せについては、七久保診療所に、その他運営全般に関わりますお問合せは、飯島町役場健康福祉課保健医療係にお問合せください。

平成29年9月1日

七久保診療所院長 廣瀬 義明

飯島町長 下平 博一

問合せ先 七久保診療所 TEL: 0265-86-6464
飯島町役場健康福祉課保健医療係 TEL: 0265-86-3111 (内線171)

閉院のお知らせ

祭りとイベント

行燈市はなくなるのか

新たな動きを支援 町長



滝本 登喜子

問 毎年7月に開催されている行燈市は、来年で終了と聞いている。夏の祭りがなくなるがどう考えるか。

町長 行燈市は後援として協力している。終了の話聞き、継続してほしいと話した。行燈市の力を引き継ぎ、町民主導型で新しいお祭りの計画がある。

大きな期待を寄せるとともに、引き続き支援をしたい。

問 町民一体となるようなイベントの開催を考えては。

町長 各種のイベントが年中開催されている。各グループ・団体が絆を深める中で、まとまって一つのイベントができるというのが望ましいし、支援をする。

子ども議会・女性議会

問 28年度予定の子ども議会が開催されなかった理由は。今後の実施はあるか。

町長 60周年記念事業のシンポジウムで子どもたちの意見を聞いた。子ども議会は、忙しい学校行事の中で負担になっている。子どもたちの声が町民の夢と希望につながる方法を、子どもや学校などの意見を聞き検討する。

問 女性議会の開催をしては。

教育長 女性ならではの視点から提言をいただくことはありがたいが、男女共同参画懇話会を

活性化させ、研修会できちんと学ぶ方式がよいと考える

町長 女性の意見は、いろんなグループに参加し聞くことができる。女性議会という型・枠にとらわれず、フランクに話をしてもらいたい。

都市と農村の交流事業

問 観光グランドデザインにおける具体的事業は。

町長 まだ決定していないが、町内企業や地域住民などとの連携による、新たな体験プログラムが事業の一つと考えている。

問 千葉市農山村留学が26年度で中止となった理由は。町はどう支援したのか。

産業振興課長 千葉市側の予算的な理由で中止の要請があった。

営農センターが業務を担当し、ホームステイ先の募集や調整を行った。町は人的支援をしたが補助金は出していない。

問 農山村留学に取り組むべきでは。

町長 農家民泊事業を南信州観光公社が行っている。一泊二日を基本に、小学生から大人までを対象にし、会社の研修などもある。

この事例など、町は今年度から農家民泊の学習会を実施したいと考えている。

問 高校生対象の交流事業を推進しては。

産業振興課長 農家民泊に高校生も含めて検討する。高校生グローバルキャンプや神奈川県橘学園との農業体験も実施しており、今後も継続・拡充していく。

〔以上3件質問〕



かつての賑わいはどこへ…



坂本 紀子

特命チーム 営業部

法人化をするのか 部会の中からの事業化を期待 町長

問 特命チーム営業部は、飯島駅付近の事務所に、職員2人地域おこし協力隊4人。

下部組織の営業部は、住民約100人。現状と課題は。

町長 5部会に分かれている。

①〔自然〕山や川・生活環境・アウトドアの3グループに分かれ、内容を検討中。

②〔文化〕町の音楽親善大使の竹下正登先生とコラボして検討中。

③〔食〕環境共生米の地産地消の推進。漬物・佃煮・ふりかけのような新たな特産品＝「ご飯のおとも」を住民募集し、いいちゃん産業まつりで提案する。

④〔花〕昨年はポピーを試験栽培した。本年は町内の花マップを作成中。来年は開花時にイベントを検討。

また、地元有志と部会員の「アグリの丘花クラブ」が、ポピーのお花畑に取り組む。

⑤〔アウトドア〕9月17・18日千人塚で、部員と町内若者のプロジェクトで「南信州アクティビティパーク」のイベントを行う予定。

各部会の活動状況は、営業部のブログで発信中。自主財源を持たないので、財源確保や事業組織をどう立ち上げていくのか。また、提案された地域資源や資産を整理し、どう具現化していくかが課題となっている。

問 インターネット販売事業の現状と課題は。

町長 出品者数15・品目17で約20万円の売上。生鮮品56%・加工食品44%で、販促のためにふるさと納税と連携していく。商品のページ作りが非常に大事ななので、指導する人がカギとなる。受注・発注はすべてeメールなので、出店者は操作を覚えることが課題である。

問 特命チーム営業部は、部会からでたアイデアを「儲かる飯島町」へ繋げる使命があると思うが、何をしていくのか。また、営業部はイベントや政策提案にとどまるのか。

町長 特命チーム営業部は職員や地域おこし協力隊のプロの集団。観光基本計画の中で、滞在型の観光など企画・PRをする実行部隊となる。

営業部は、地域の資源を見つけ磨き、売り物を提案する地域のグループ的な組織。

問 今の特命チーム営業部は事業資金を持たない。町長は法人化すると言ったが、来年に向けた考えは。

町長 営業部全体を法人化はしない。営業部の中から事業組織が出来、法人化になるのが良い。

問 次年度はこのままか。

町長 自然の成り行きが良い。

他に、町長就任2年の気持ちと今後の目標について質問しました。

〔以上2件質問〕



活動中の特命チーム営業部

「支え合いマップ」

作成の主体はどこ

各耕地・自治会だ 町長



橋場 みどり

問 支え合いマップ見直しの主体はどこか。

町長 各耕地・自治会が主体だ。

日常的に支え合う意識向上の狙いで推進している。地域包括システム構築の一環として、効果があると認識している。

総務課長 見直しは、社会福祉協議会に委託している。

それ以降、未更新・毎年更新はそれぞれである。未だに3箇所が未作成。

今後は社会福祉協議会が耕地・自治会と連携して更新するよう町は働きかける。

問 プライバシー保護のため、個人情報共有の同意が得られにくい。町の対応は。

健康福祉課長 万が一の時には、個人情報に注意しながら同意を得るが、地域で助け合う意識を持ち、備えが出来ればいい。

防災士資格取得

問 取得補助金交付の対象者数は。今後も継続するか。

総務課長 今年度は2人分7万円を計上。来年度以降も継続。

耕地・自治会に1名は配備したい。

問 資格取得の応募が少ない。町は適任者に声かけすべきでは。

総務課長 各耕地・自治会で、人材の掘り起しや推薦をお願いしたい。

問 県内の養成講座は年1回。県外は受講経費が高い。全額補助すべきでは。

総務課長 県内会場を想定しており、資格が個人のスキルアップにつながることを考慮し、考えていない。

問 地域防災計画の全面改定の経緯・目的・ポイントは。

総務課長 第三次県地震被害想定調査などの結果を踏まえ反映する。

専門業者に委託し、庁内会議で確認しながら整備していく予定。

待ったなしで国際交流を

問 駒ヶ根市と連携して海外交流をすすめるべきだが、町の国際化への考え方は。

教育長 学校の総合学習を活用し、JICA交流を通じ海外の言語・文化に触れる機会を提供していきたい。

小学校の土曜参観で、外国籍を交えた保護者どうして、ランチバイキングをしながらの交流に人気があるそうだ。こういった企画・動きを応援したい。

問 国際感覚の醸成をするために、町民や役場職員を海外派遣できるよう条例制定すべきでは。

町長 中学生に、知識や海外へ行ける機会を与える環境を作ること大事だが、まずはJICAとの交流で知識を深めてほしい。

個人の意識の中で国際化するのは自助努力だ。

〔以上3件質問〕



支え合いマップでご近所づくり



好村 拓洋

職員体制

適正化を

的確な手を打ちたい
町長

問 町長就任後1年半が経過した。行政の基本的役割と民間経営感覚の違いは。

町長 福祉・経済・安全危機管理の3つに大別される。

行政は国から今、福祉について地域包括支援システムの構築、経済は稼げる地域を作る地方創生、また、インフラ整備が求められている。

民間経営との違いは、民間は対価が目前で交換される。行政はその場での取引はない。税金という形で集め、サービスでお返しするものだ。

問 行政サービスの窓口が複雑では。例えば空き家対策に係わる担当部署が分散し、わかりづらい。シンプルな組織にしては。

総務課長 空き家対策は、住民税務課・建設水道課・企画政策課・総務課の4つの課にわたっている。

1. 住民税務課は上部機関からの調査・各種会議の出席・環境面や衛生面への対応。
2. 建設水道課は耐震性の推進・周辺景観への配慮。
3. 企画政策課は空き家の有効利用・情報発信。
4. 総務課は防災・防犯面での対応。

対策として事務事業、組織体制を含め検討したい。

問 休日や催事に多くの職員が参加している。代休の取得状況と対策は。

総務課長 休日勤務の4時間または8時間単位で代休を取得するようになっている。昨年度の取得率は54%だ。取得できない場合は翌年度繰越しで対応している。

問 災害などが発生した際には役場職員のマンパワーが必要だ。休めるときに休むよう体制づくりを。

総務課長 代休取得できるように職員一人ひとりが工夫して対応している。計画的な代休取得を促し、働きやすい職場作りを整えたい。

問 観光政策で交流人口が増えると、ゴミや騒音問題など、町民の生活環境に影響が出る恐れがある。前もって体制の整備が必要だが。

町長 交流人口が増えることを望む。遊ぶ中で自然を大切にしようアピールしたい。

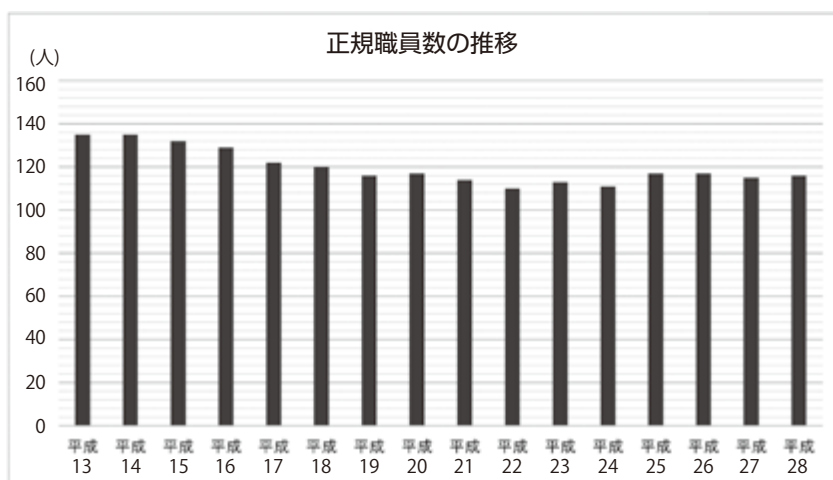
今後事業が進む中で、良い面と悪い面の両方を精査し、対応する。

問 地域おこし協力隊で対応している事業がある。例えば「まちの駅」がそうだ。協力隊制度がいつまで続くかわからない中で、職員とランチミーティングなど通じて出口戦略を考えるべきでは。

町長 『町長は何を考えているんだ』と思う職員もいるだろう。想いや考え方の共有は大事だ。

役場は課の単位で専門性に分かれているが、横の繋がりが少ない。課を越えた中で話しをすることも大事で、ランチミーティングなどを含め検討したい。

〔以上1件質問〕



町社会福祉
協議会

連携強化を

地域福祉拠点機能に期待 町長



折山 誠

問 介護など社会保障制度の改正が急激であり、今日多くの社協が、組織体制を時代のニーズに合わせられず、経営に苦慮している。

社協は、長く行政施策と民間事業の隙間を埋める役割を担ってきた。その経営基盤強化は、ボランティアセンターを有する地域福祉拠点の強化につながるもの。

そこで、国の制度改正に合わせて、行政が社協に期待する方向性を明確にし、組織の变革支援・連携強化をすべきでは。

町長 当町では、少子高齢化が国を20年ほど先行している。

そのため、地域課題の解決力・地域を基盤とする包括的支援の強化など、共生社会の実現に向けた取り組みが喫緊の課題だ。その取り組みの中心的な役割を期待し、連携をすすめる。

問 交流と行政研修の目的で町は社協職員を受け入れている。前年度末に社協会長から当該職員の引き上げ要請があったが、これに応じず、今も町固有の事務事業に従事させている。

人件費はだれが負担しているか。また、他事業所の職員を、町の都合で留めることはいかなものか。

副町長 人件費は、社協で負担している。町の諸事情で派遣延長をお願いした。

問 介護報酬引き下げなどにより、社協の経営は厳しい。協議のあった4月にさかのぼり、町が人件費を負担すべきでは。

町長 対等な立場で、社協と協議する。

観光基本計画と
アウトドア構想

問 先の議会臨時会で、千人塚公園の施設整備に約1億円の補正予算が成立した。

観光基本計画策定およびアウトドアフィールド事業調査は、施設整備前にその根拠として策定すべきであったと思う。

進捗状況とそれぞれの策定目的は何か。

町長 観光基本計画は、12月議会に案を報告予定。アウトドア調査は9月中旬までには完了の予定。

目的は町内観光拠点の質的向上を図り連携させ、四季折々の滞在型観光を提供して経済効果を創出すること。

町長任期後半、
政策推進の責任所在は

問 町長の政策の骨子は「町は仕掛けをした。町民が力をあわせて実現することを期待し支援する」ことが基本となっている。

政策推進責任の所在が不明瞭では。

町長 私が種をまき、町のために活動を起こすグループが動き出すという芽が出ている。これを観光産業に仕上げていく。

発掘し、拠点を整備し、アンサンブル化する。それを都会へ発信するという4段階のプロセスがある。町民組織・役場がそれぞれ責任を持って行うこともそのプロセスとして考えている。

今後は町民の働きに協力しながら、町が中心になって施策をすすめていきたいと思う。

〔以上3件質問〕



地域福祉の拠点 町社会福祉協議会



本 多 昇

平成28年度
決算収
支
状
況
は妥
当
で
あ
る
町
長

問 実質収支は2億7586万円の黒字決算。単年度収支は6598万円の赤字、実質単年度収支は1279万円の赤字となった。

27年度決算は無策で、実質収支を大きく増加させたことが一つの要因と考えるが。決算収支が均衡していることは何よりも重要だ。

実質収支が多すぎる決算収支状況は、異常ではないか。

町長 単年度収支及び実質単年度収支の赤字は、過去の余剰金を使ったことになるが、予定した事業を計画的に執行した結果であり、決算収支状況は妥当で

ある。

企画政策課長 単年度収支及び実質単年度収支の赤字は、何年かの中では起こり得ることだ。

専決補正予算の見直しにより、平成27年度における実質収支が3億4185万円と例年以上に大きな額となり、その反動で赤字となった。

問 実質単年度収支を29年度黒字に改善することが必須と考えるが。

企画政策課長 町税など一部で歳入の増加が見込め、起債の繰上償還の計画を考えている。

中長期的な視野に立って計画に沿った予算管理・執行を行い、健全財政に努める。

問 不用額が大幅に減少した。5特別会計の不用額を検証すれば、繰出金減額は可能と考える。

特別会計も含め不用額の更なる検証を求めるが。

企画政策課長 一定基準以上の不用額の減額補正を行うよう努めてきた。予算の執行の確認、適切な管理と執行を工夫する。

千人塚公園へ大型バス
道路確保を

問 県道千人塚公園線は一部が狭隘のため、大型バスがスムーズに乗り入れできない。街の中の拡幅は難しいので、天神松線から南に行く御堂垣外線・タンジョウ線約500mの拡幅が最適ではないか。

町長 千人塚公園は、町の観光振興を図る重要な拠点の一つであり、さらなる利活用を図るため、安全で快適なアクセス道路の整備は重要な課題。

最適なルートを総合的に検討する。

シオジ平自然園の復活を

問 千人塚公園に観光地域づくり拠点施設が整備され、公園の利用者増加が見込める。シオジ平自然園へ行く林道横根山線は、平成19年8月から全面通行止めである。

安全に通行できるよう、国・県に対し、治山事業の促進を積極的に働きかけ、観光名所の復活を。

町長 シオジ平自然園は町の観光資源の一つとして大切な財産である。

国や県と協議し、通行再開への道筋を立てて行く。

〔以上3件質問〕



観光名所復活を待つシオジ平自然園

就学援助

入学前支給を

国の改正で実施の方向 教育長



三浦 寿美子

問 今年の3月定例会で、就学援助を来年入学に間に合うよう求めたが、検討はしたか。

教育長 国から要保護児童生徒援助費交付金要綱の一部を改正する通知があった。町も改正要綱に基づき実施を検討している。

準要保護児童生徒にも同様の対応を検討している。

問 補助金交付要綱では、入学時の学用品費などの国庫補助が大幅に引き上げられた。町の対応は。

教育長 国から約倍の金額が示され、この方向で支給できるようにしたい。

進んでいるか 「ひきこもり対策」

問 教育委員会と健康福祉課で連携し対応すると言ったが、取り組みの状況は。

健康福祉課長 4月から「ひきこもり支援員」を配置した。

今まで支援できなかった人にも、面談や訪問で少しずつ対応できるようになっている。医療機関の受診ができた人、町・県・民間などの居場所に通い始めた人、就労の話に進んでいる人もいる。

教育委員会とは連携し、それぞれ連絡を取り合いケースごと対応している。年齢の切れ目がない支援を行っていく。

ごみは分別すれば資源

問 ごみを分別する基本的な意義は。

町長 リサイクル・リユースを優先し、最終処分量を少なくすることだ。

問 町では長い間ごみの分別に取り組んできた。どう評価しているか。

住民税務課長 ごみ処理で最も重要なのはごみを出さない取り組みと、ひと手間かけて資源として出すこと。

平成28年度の上伊那の1人1日当たりのごみの平均排出量は618g、資源化率19.5%。飯島町は460g、資源化率28.5%で、住民意識が高いと考えている。

問 新ごみ処理施設には、発電施設が併設される。熱量確保のために容器プラや産廃などを投入しないか心配だ。ごみの内容は明確か。

住民税務課長 国の方針に基づいて、廃プラは助燃剤として利用する。細部の分別方法は今後検討することになる。容器プラなどが助燃剤に流れないような仕組みも考えていく。

問 広域議会に、発電施設の事業費の提示がない。町の負担金に関することなので、町議会に十分な説明を求める。

住民税務課長 上伊那広域議会の報告があるたび、町議会に報告をする。

〔以上3件質問〕



きれいにしてね！ 容器プラ



浜田 稔

儲かる 飯島町

町の経済をどう変える 数値目標はまだ無い 町長

問 飯島町の産業構造は。

町長 年間売上げは工業500億円・商業30億円・窯業（セラミック）などの順で、特に食品工業の比重が大きい。農業の規模は小さいが生活の基盤でもあり、景観保全などで誘客の基礎にもなっている。

住民所得への寄与率で見ると順序が変わり、福祉・医療・介護などをトップに、食品工業・建設業が町民の生活を支える。

問 現在の飯島町の経済構造は「儲かる飯島町」政策でどう変わるのか。

町政2年目なので、経済効果や目標を時期・売上高などの数字で語る段階ではないか。
町長 しっかりした数字はまだ持っていない。

問 昨日の一般質問に『地域資源を生かした事業が、飯島町営業部から生まれるのはこれからだ』という町長答弁だった。その一方、3ヶ年計画には「信州アウトドアフィールド事業」として、来年度と再来年度にそれぞれ1億2千万円が盛られている。各年度で最大規模の事業だ。

事業の担い手が見えないのに、大規模事業案が予定されていることをどう説明するのか。

町長 有利な交付金である国の地方創生資金を受ける準備だ。

問 有利としても町の支出が約1億円増え、福祉などを圧迫しかねない。

来年度から観光産業に投資するなら、今から収益性などの目標を語るべきだ。

町長 観光基本計画策定の中で適地や金額が示されると思う。10年かけて年度ごとに投資を進めたい。投資の執行責任や事業主体はこれからの課題だ。

町民の経済格差 どう向き合うか

問 児童生徒の経済的な困難をどう捉えているか。また給与所得者の実情は。

町長 生活保護世帯数は10年前の8から22に増えた。

教育長 要保護・準要保護は10年前の30人から81人に増え、児童生徒9人に1人が経済的困難を抱えている。

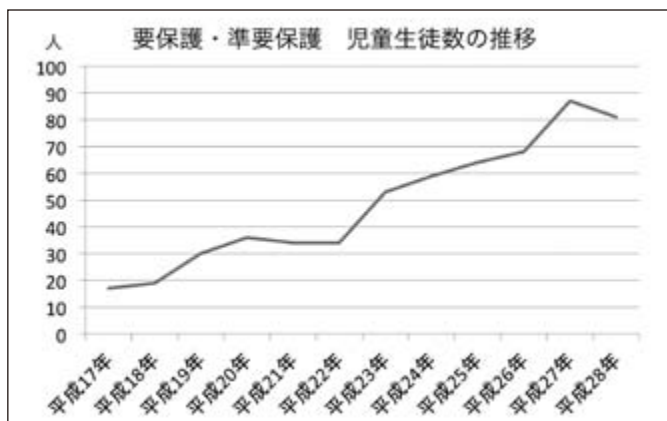
住民税務課長 10年間で非正規雇用が24%から36%に増えた。給与所得者の3割を占める201万円から300万円の所得層が3%減り、それ以下の階層が増えた。

問 町民の生活がリーマンショックの傷跡から未だに回復していないことを示す数字だ。

当時、緊急雇用事業などが行われたことを思えば、国に強く対策を求めるべきでは。町としても取り組み強化を。

町長 アベノミクスは实体经济を改善しなかった。政府は福祉関係の賃上げ・教育投資・地域の強靱化など、消費投資を先導すべきだ。国の関係者に働きかける。

町民からの生活相談は県の生活就労支援センターと連携、生活保護に至る前の対応を心がける。
〔以上2件質問〕



子ども自身では解決できない

中学校 西側道路

拡幅計画を

効果的な整備検討 町長



中村 明美

問 この車道は5.5m、センターラインが無い。歩道は1.3mで狭く圧雪時は危険だ。公共施設周辺道路で活用頻度が高い。

「飯島中央クリニック」開業・薬局の開設により、今後車や人の往来も増えることが予測され安全面が危惧される。さらに避難施設の中学校の隣接道路でもある。

拡幅計画を早急に進めるべきでは。

町長 上ノ原幹線から役場・文化館・中学校を結ぶ重要な生活道路。歩道は通学路であり、有事の際の避難路ともなっている。

すれ違いのできる幅員で歩道もある改良済みの幹線道路だが、今後の交通量や歩行者の推移を検証し、どのような整備が効果的か検討する。

児童の読書習慣推進へ 環境づくりを

問 司書は、図書学習など仕事量が多く半日勤務では厳しい。

児童のためにも図書館を終日開館しては。

教育長 基本的には図書学習も担任指導が原則で、司書はアシストする役割。小学校は、司書不在でも担任が図書指導することは十分可能。

工夫次第で図書館の終日開館もできる。

問 過去に提案した図書館のエアコン設置の、その後検討経過は。

町長 なかなか難しい状況にある。

問 小学校図書館のエアコン設置に「ふるさと飯島応援基金」を活用しては。

町長 基金の使い道には、多くの要望がある。その一つとして検討していく。

問 本年7月、小学校1年生に3回目の贈本としてサードブックが配布された。同時に読書ノートも配布すべきでは。

ノートは、楽しみながら記録し、苦手な子たちも本が好きになるよう工夫されているので、全児童へも配布すべきでは。

教育長 贈本事業とどうからめるか検討していきたい。

「親子月間」の制定を

問 あまり浸透していないが、7月の第4日曜日は「親子の日」。家族の絆を深め楽しい夏休みになるよう、この日から夏休み中を「親子月間」とすることを提案するが。

教育長 親子の日は、2003年にアメリカ人の写真家ブルース・オズボーン氏が、日本の家族写真を見て触発され「家族の日」を提案したのが始まりだ。

母の日・父の日と同じように、7月の第4日曜日を親子の日に制定した。まだ普及していないので、いっ子センターのチラシにロゴを入れたり、子どもの集まりの中で話ができればいいと思っている。

その他に町民の健康促進事業の一環として「健康ポイント制度」導入とラジオ体操の音声放送を提案し質しました。

〔以上4件質問〕



歩道・道路の拡張を

町民の声を 議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回はバドミントン部長小林啓志さんこばやし けいしに登場していただきます。

活動内容は？

現在50・60歳代の皆さんが30・40代であった昭和時代、町には企業チームを含め約20チームの愛好者クラブがありました。初心者教室も開催し、修了者でクラブを結成し、活動も活発に行われ、対抗戦など盛んにバドミントンが行われていました。

町スポーツ連絡協議会バドミントン部は、協議会と各クラブのパイプ役「プラットフォーム」としての役を務めてきました。

昭和60年に第1回の町大会が開催され、今年で31回の大会となります。参加者が少なく、開催を危ぶむ年もありましたが、男女別ダブルス・混合ダブルス・ジュニア大会と年に3回の大会を企画運営し、毎年、町内をはじめ在勤・在住者が多く参加しています。

今年度も12月と3月に予定していますので、多くの皆様の参加をお待ちしています。

今後の展望

バドミントンは小さな子供から高齢者まで幅広い年代で、自分の体力・技術に応じ楽しめるスポーツですが、お世辞にも長野県は盛んとはいえません。町も同様で、中学生の育成がままならず高校から本格的に始めた方も多くいます。

町のジュニア育成は、小中学生対象の町ジュニアバドミントンクラブがあり、現在16名が参加し、部員が交替で指導にあたり毎週水曜日の練習に励んでいます。

そんな中、飯島町にも縁のある「奥原希望」選手のぞみの活躍によって、全国的に一層盛んになってきました。(奥原選手の父親はバドミントン経験がなく、体育館ではひたすらシ

ャトルを投げ込むノックといわれる練習を、夜2時間していたようです。)

社会人となった愛好者が、近隣の市町村クラブで練習している現状ですが、技術レベルに応じ集まれる環境の提供が課題です。飯島町バドミントン部もジュニアの育成を中心に、より良い練習環境を目指していきたいと思います。

議会へのお願い

多様化・高度化している住民の意見を汲み上げるのは、簡単ではないと思います。町を良くも悪くもするのは、町長でも町議会議員でもなく、町民一人ひとりだということを多くの方が感じていると思います。その想いを是非町政へ反映させてください。



議会だより

クイズ

問題

長年の夢叶う
〇〇〇子センター

ヒントは
4ページに

正解者5名様にいいちゃん商品券進呈
(締切は11/30、発表は発送をもってかえさせていただきます)



応募要項
住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ
ハガキ・FAX・いいちゃんポストで、飯島町
議会事務局 議会だよりクイズ係宛まで

編集後記

78号7ページ「土砂災害に備えて現地視察」の記事中で58年集中豪雨の被害河川は「矢の沢」でなく「宮の沢」でした。お詫びし訂正いたします。

発行責任者 議長 堀内克美
編集委員 ◎橋場 ○折山
滝本・好村・浜田・坂本